

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【人文社会科学系】

2回の筆記試験とTOEICの成績

授業後に毎回行う小テスト

最終の期末試験成績を元に成績を評価したが、毎回出席をとっていたので、欠席者に対しては、回数によって一定の減点を行った。

レポートのできに出欠状況を加味

授業期間中に授業の内容を問う中間筆記試験をおこない、学期末に授業の内容を問う期末筆記試験をおこなう。中間試験の結果40%、期末試験の結果60%の合計で成績を出している。

毎回授業による学習活動に対する平常点(40%)、授業での学習を活かして制作した作品表現(30%)、授業での学習を通して広げられた表現への考えについてのレポート(30%)の合計点をもとに評価した。

学生の授業への参加態度(グループ活動、個人活動、授業中のディスカッション等での発言、課題発表等)、及び、作品(課題)、個人レポート、グループレポート等、すべての課題の出来具合。レポートは、内容、構成、理解度、広さ、深さ、独創性、文章などの観点から評価。授業、活動でのリーダーシップ、問題解決等、特記事項があればそれも加味して評価。

学生の自己評価も実施し、その自己評価から学生の授業の理解度等を知る手がかりとしている。

レポート2回分で70%、授業内レポート20%、出欠10%の配点で評価した。レポートの採点基準としては、調べたことをわかりやすい形で説明しているか(1回目)、指定された文献の内容を踏まえたうえで自分の見解を述べているか(2回目)、誤字脱字や文構造の乱れがないかどうか(両方)、という点を重視した。手書きで提出させたため、その手間を評価する気持ちから少し甘く評価しすぎた面があると反省している。

50%は授業参加の状況に対する評価である。これは三度のグループワークでの積極性の他、原則として毎回授業の最後に課題を出し、当日の内容を踏まえて各自が回答を提出させたものを評価した。残りの50%は期末レポートに対する評価である。レポートは、①全授業を8のトピックに分け、各自が一つを選択してその内容の要約をする。②授業で扱ったものに関連する作品(複数の例を教員がpdfで用意したが、学生自身が独自に探したものでも可とした)について評価・分析する、という二つのパートから成り、①については正しくまたわかりやすく要点を整理しているか、②については独自の分析ができているかを中心に評価した。

シラバスで学生に周知した成績比率で評価した。

1. 平常点10%: 講義に出席し、積極的に学んでいたかどうか。(欠席、居眠りは減点)
2. 提出課題 20%: 10回分の課題が毎回2ページずつできているか、期限を守って課題をやりしールをもらったかどうか、を基準に、A+, A, A-, B, Cの評価をつけ、点数化する。
3. 試験 70%: スピーチ1回目が10%、スピーチ2回目が10%、筆記試験が50%という比率である。スピーチは5つの項目で評価し、筆記試験は教科書で学習したページをもとにリスニング問題を含む100点満点のテストを換算する。

授業への出席率、授業中の態度、課題への取り組み、及び期末テストの結果

各章ごとに配布している上述の補助プリントを見れば、学生達の普段の理解度・授業態度が分かりますので、それらを平常点として評価しました。加えて学期末のペーパー試験で評価しました。

<p>英語が得意、不得意に関係なく、どれだけ意欲的に授業に参加し、授業外学習にも取り組み、学期末までにどれだけ定着したかを見ながら評価をした。 従って、評価の内訳は定期試験(リスニングを含む)、復習テスト2回分、プレゼンテーション、課題提出、そして授業への取り組みなど総合的に見ながら、成績を出した。</p>
<p>シラバスに明記した通りに評価しました。 定期試験30%、出欠席および授業参加度25%、発表30%、提出物15%</p>
<p>通常の法律学における答案評価の基準に原則的には準拠して成績結果を導出した。特に評価において重視をした点は、講義時において強調した点でもある、《一般にメディア等が憲法をめぐって議論している言説だけではなく、憲法条項の文言・構造を踏まえた検討を行っているかどうか》、という点と、現実の身近な事象を憲法上の論点として把握しようとしているか、という点であった。</p>
<p>ペーパーテストが中心です。授業にきちんと出ていれば解答可能な内容のテストです。</p>
<p>平常点30パーセント、授業後のコメントペーパー40パーセント、期末レポート30パーセントという形で計算し、成績を出した。コメントペーパーもレポートもしっかり客観的な見地から考えられているか、独自の視点が見られるか、論理的に筋の通った形で書かれているか、といったことを評価のポイントとした。</p>
<p>定期試験の評点による。初級語学の試験では主観的判断の入る余地はないので、点数は明快である。</p>
<p>講義の内容ができていないか否かと独自の见解が示されているか否か。</p>
<p>授業内容全体を振り返ることができる問題を学期末の試験で課すことによって、授業目標に対してどの程度達成できたかを確認した。授業期間を通じて身についたはずの方法論を用いた分析ができていないか、他者を説得できる説明が自分なりの工夫とともにできているかを基準としている。通常の授業における課題への取り組み姿勢も評価には加味した。</p>
<p>(1)基本的には期末試験の点数によるが、普段の授業中の受け答えなどに基づく平常点を10%考慮している。(2)中間試験と期末試験の結果を元に成績を出した。(3)3人の講師それぞれが担当授業分の最終日に試験を行い、その結果を総合した。</p>
<p>小テスト3割、口頭テスト2割、期末テスト5割を基本に、全体の平均点を若干調整して総合的に評価した。</p>
<p>通常の授業への取り組み態度と最終レポートで評価しました。リテラシーを身につけることが目的ですので、日ごろの授業への参加、取り組み姿勢を重点的に評価しています。</p>
<p>授業内で制作した作品(写真、新聞、動画)と、その振り返りレポート、および出席と授業への取り組みによって評価した。振り返りにレポートに対して多くの評価点を与えている。</p>
<p>授業を大きく3つのセッションでくり、そのセッションごとにレポートを提出させた。セッションごとに、何に留意すべきかを口頭で指示し、問題意識を明確にさせたので、その点が不明瞭な学生の評価は低くなっている。</p>
<p>授業で取り上げた内容に関するリスニング・リーディングについての定期試験70% 授業参加度・ペア学習への取り組み30%</p>
<p>与えられた英語の文章をよく理解し、内容をまとめ、英語で正しく表現できているか確認するための総合試験を行った。それを規定以上クリアしたかを基準とし、成績とした。</p>
<p>平常点(出席、授業に取り組む態度、姿勢、小テスト等)と学期末試験を総合的に勘案して評価を出している。</p>

【F英語コミュニケーションI】平常点25%、予習点25%、期末試験50%の割合で、3つの観点から総合的に評価した。このうち予習点とは、毎回予習をすることによって学生が得られる点数で、その有無については、授業開始時の各学生のテキストやノートのチェック、及び授業時間中の応答の仕方によって確認した。提出した成績評価は、上記の基準を満たす学生が大半であったため、S・A・Bが多く、Cが若干名であった【F英語II】平常点25%、予習点25%、期末試験50%の割合で、3つの観点から総合的に評価した。このうち予習点とは、毎回予習をすることによって学生が得られる点数で、その有無については、授業開始時の各学生のテキストやノートのチェック、及び授業時間中の応答の仕方によって確認した。提出した成績評価は、上記の基準を満たす学生が大半であったため、S・A・Bが多く、Cが若干名であった。(なお、本授業の成績評価にはTOEICスコアも含まれるため、スコアの要件を満たさなかった者については、外国語教育講座の規定にしたがって成績を提出した。)

1クラス50名を超える外国語のクラスということで、現実的に、個々の学生を覚え、平常の活動を評価することは難しいと思われるので、基本的には、定期試験で評価し、授業中の発表などがある場合は、記録に基づき定期試験による評価が境界線の場合に考慮しました。

定期試験の得点で成績結果を出した。

期末試験結果およびプレゼンテーション点に平常点を加味し、総合的に判断した。(英コミ1)  
期末試験結果および平常点で総合的に判断した。(英語2)

英語コミュニケーション I では、出席・授業態度(20%)、筆記小テスト2回(40%)、期末口述テスト(40%)で出しました。出席・授業態度には、毎回提出したコメントシートの内容も加味しました。  
英語 II では、出席・授業態度(20%)、e-learning(20%)、期末試験(60%)で出しました。  
今回、初めて英語サポートセンターの方にご協力を頂いて、e-learningを取り入れましたが、ほとんどの学生が自分なりに弱点を克服しようと頑張っており取り組むことができました。

授業内で実施したリスニング小テストの結果、英語の発音、イントネーション、ジェスチャーも重視したグループ・パフォーマンスの中での各受講生の評価、学年末試験のスコアを考慮しつつ総合的に判断した。

出席、授業態度はもちろん、期末レポートにおいては自分で選択した課題に対して授業あるいは教科書で学んだ思考方法や知識を踏まえて、その課題に対して自己の主張を説得的に説明できているかを重視した。

【L多文化リテラシー】レポート70%、出席・コメントシート30%で評価した。  
【L市民リテラシー】テスト70%、出席・コメントシート30%で評価した。

出席および最終レポートでの着眼点に注目した。特にレポートの着眼点については、ユニークさに加え、なぜその点に着目したのか理由を明確にしているものを重視した。